

(財)放下鉾保存会

団体所在地 京都府京都市中京区新町通四条上ル小結棚町

理事長 川北 昭

会員数 8名

設立年月日 大正15(1926)年6月18日

【放下鉾(祇園祭山鉾)】

祇園祭の山鉾の一つ、放下鉾^{ほうかぼこ}は、新町通四条上ルに位置します。鉾の名前は、真木の「天王座」に放下僧の像を祭ることに由来しています。鉾頭は日・月・星の三光が下界を照らす形を示しており、その型が州浜^{すはま}に似ていることから「すはま鉾」とも呼ばれています(図1~2)。

【活動内容】

放下鉾の保存、維持管理および祭事運営の全般を行います。また、懸装品などを保管する京都市指定文化財の「小結棚町会所」と蔵の維持管理も行います(図3)。保存会は理事3名、監事2名、他の計8名で構成されています。ここ20年間会員の変更はありません。

●放下鉾の特色

財団法人放下鉾保存会が設立されたのは、大正15(1926)年と祇園祭の山鉾のなかではもっとも古い歴史をもっています。保存会へは、町内(約100mの両側町)のなかに住んでいるからといって入会できるわけではなく、寄付を納める等々の条件を満たす必要があります。これは明治時代まで町内の住民となるためには「寺請」等の保証人証文を町年寄にだし、許可を得て居住できた経緯によります。認められなかった場合は町が家屋を買ったため、町家(町が所有している家)を何軒ももつことになったようです。

●伝統を守る鉾

保存会構成員の8名は祭事運営にはぎりぎりの人数です。しかし、懸装品等の蔵よりの運びだし・飾りつけなどはいくら人数が多くても、皆が一緒に直接作業できるものではないため、重要なのは人数を増やすことよりも、実質指示・指導できる人材を育成することであると考えます。祭りの実行には、鉾建

ての作事方、囃子方、ボランティアによる鉾の曳き手、そして粽の作成や販売、会所当番には町内の応援等、約160名がこれに携わります(図4~5)。

また、運営費は市の補助金のほか、保存会の持ち家の家賃収入、粽の売り上げなどで賄っており、おもな収入源は家賃収入です。放下鉾のオリジナルグッズやキャラクターをつくり販売してはどうかといった意見もできますが、財団は商売ではなく、あくまで神事であることを重視します。放下鉾は、鉾建ても含め伝統やしきたりの伝承に重きを置き、一時的なパフォーマンスを快しとしません。

●今後の保存会

懸装品、木材などは損傷し、また経年劣化のため補修しなければなりません。それには莫大な費用がかかります。国等に6~7割を負担していただいても、当会で簡単に残りを負担できるわけではありません。資金の捻出が今後の課題となっています。

運営面では、協力者を含む全員



図1 放下鉾



図2 鉾の上



図3 道具



図4 放下鉾辻回し

が無償奉仕で携っていますが、近年は決算や賃貸契約のほか、雑事項が増え、年間を通しての事務量の増大に困惑しています。加えて、祭事の過程では、不祝儀等で一人でも欠けるとかわりの者がいないため、少人数での運営には危惧を感じています。

また、祭りの伝統としきたりを守るなかで、鉾への「女人禁制」を続けていますが、女性の会所当番、粽作成・販売などの支援者としての活躍は大きく、今後ともその応援・協力を期待しています。

伝統やしきたりを継承する放下鉾保存会は、「神事」である祭りを守っていくことを選んだ鉾です。今後も伝統としきたりを守り続けていきます。

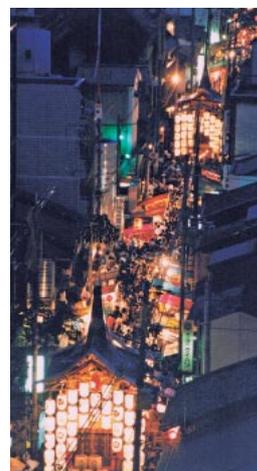


図5 四条新町から望む